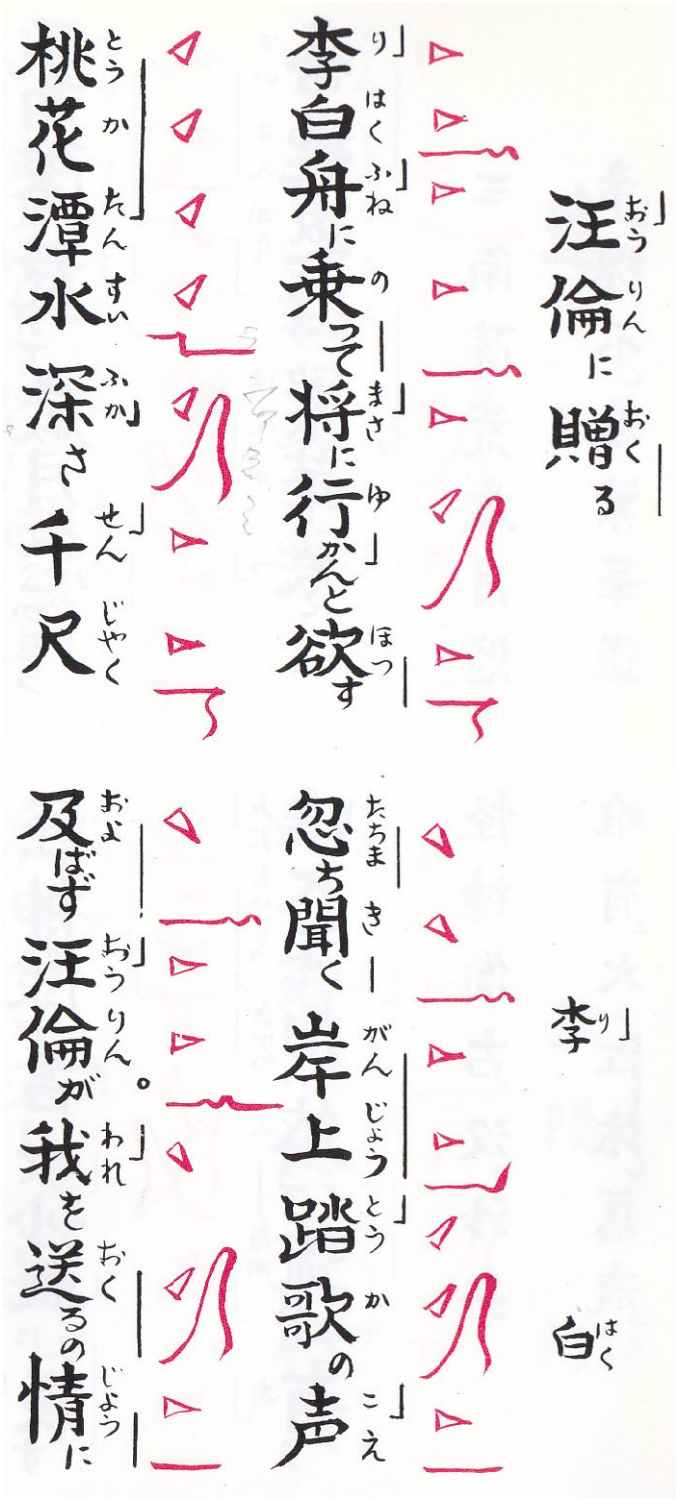

【作者】李　白(七〇一～七六二年)盛唐の詩人。杜甫(とほ)と並び称される。蜀(しょく)の錦州彰明県青蓮郷(きんしゅうしょうめいけんせいれんきょう)の人で青蓮居士(せいれんこじ)と号した。幼にして俊才、剣術を習い任侠の徒と交わる。長じて中国各地を遍歴し、四十二歳より四十四歳まで玄宗皇帝の側近にあり、後再び各地を転転とし多くの詩をのこす。安禄山(あんろくざん)の乱に遭遇して、罪を得たがのち赦される。六十二歳、病のために没す。

【語釈】＊汪　倫…安徽省涇県(あんきしょうけいけん)にある桃花潭の村人　酒造家でしばしば李白に酒をもてなした人

＊踏　歌…手をつなぎ足を踏みならしてうたう歌　　＊桃花潭水…潭はふち　川の水　安徽省涇県にある渕の名

＊不　及…桃花潭の水の深さも汪倫の心の深さには及ばない

【通釈】私は今、小舟にのって、いよいよ桃花潭を出発しようとしている。突如岸の上で足を踏みならしながら歌う声がきこえてきた。この桃花潭の水は、深さ千尺もあるという。それでもその深さは、汪倫が私を送ってくれる情の深さには及ばないのだと、汪倫の友情の深さをのべている。汪倫や村人たちの素朴な感情と、別れを惜しんでくれる深い心とに感謝した詩である。

【備考】李白五十五歳の作、見送る者が旅立つ人に贈る詩が多い中で、この詩は送られる李白が見送る汪倫に詩を贈っている。

（この作品は留別の詩という）